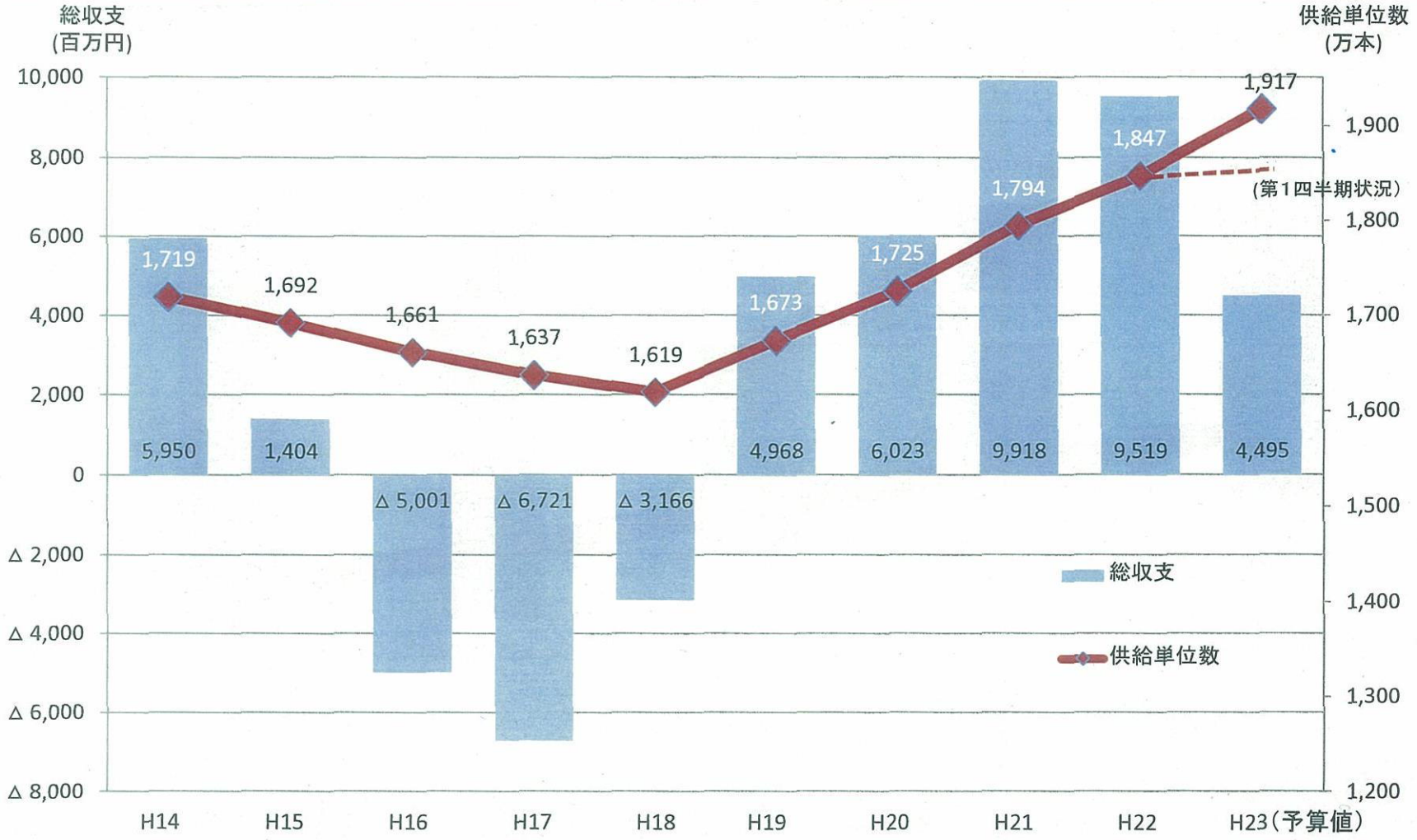
日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

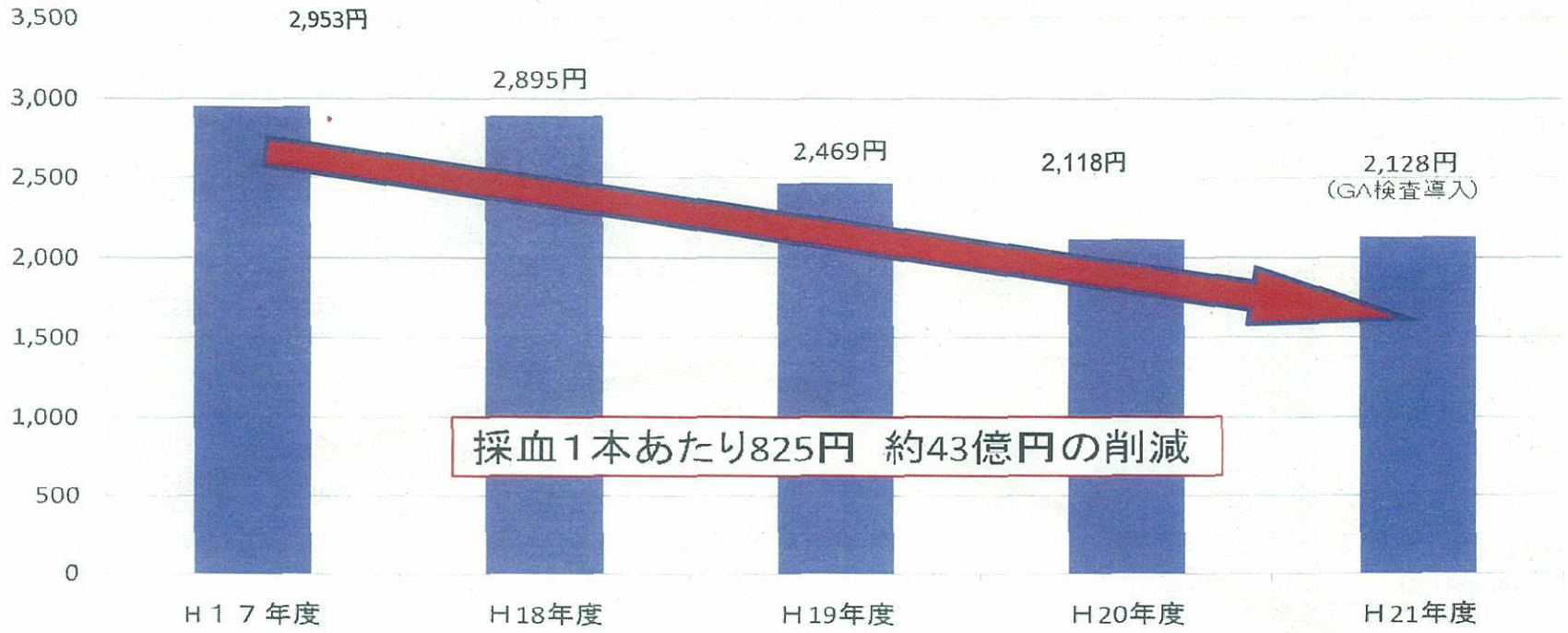
輸血用血液製剤の供給数推移と収支状況



資料7

検査業務集約によるコスト削減

採血１本あたりの検査費用（NATを除く）の推移



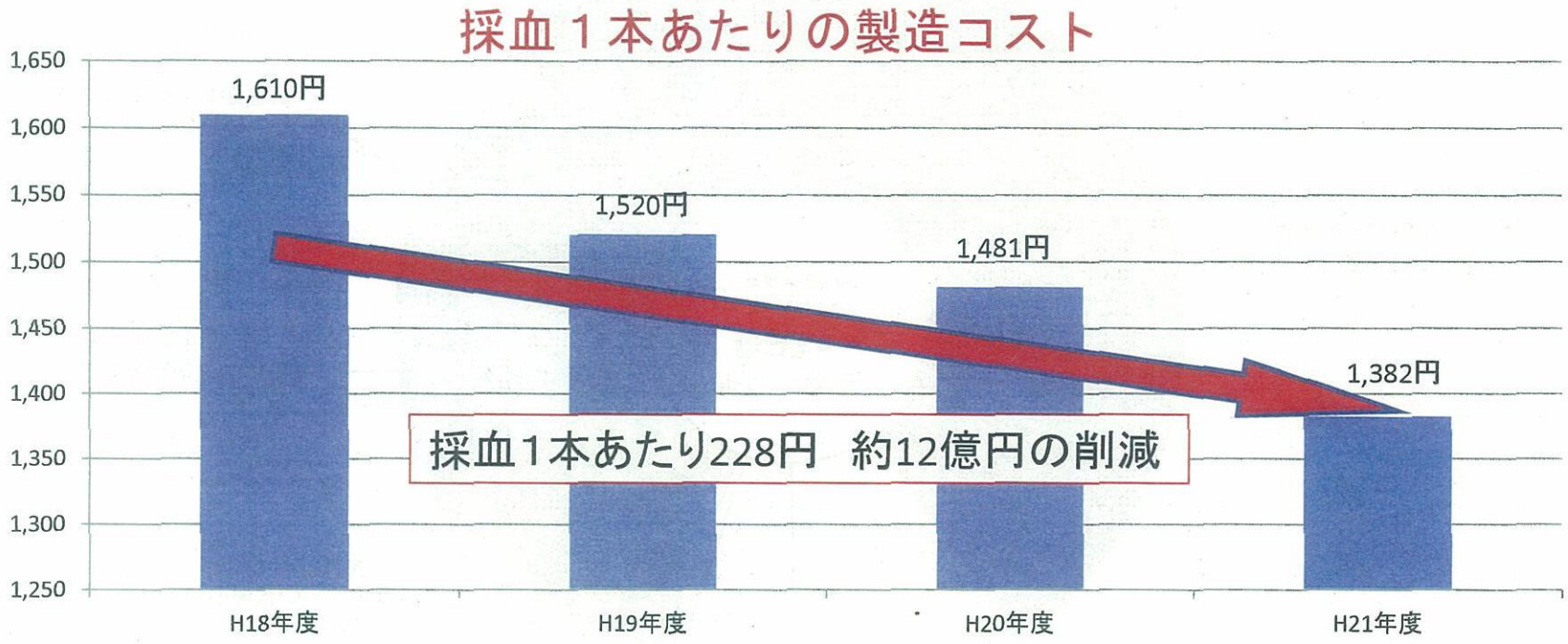
検査実施箇所数	41	30	20	10	10

＊最終実施箇所予定数＝8

コスト削減効果

単価差額（平成17年度2,953円－平成21年度2,128円＝825円）×平成21年度採血数　530万人＝約43億円

製剤業務集約によるコスト削減



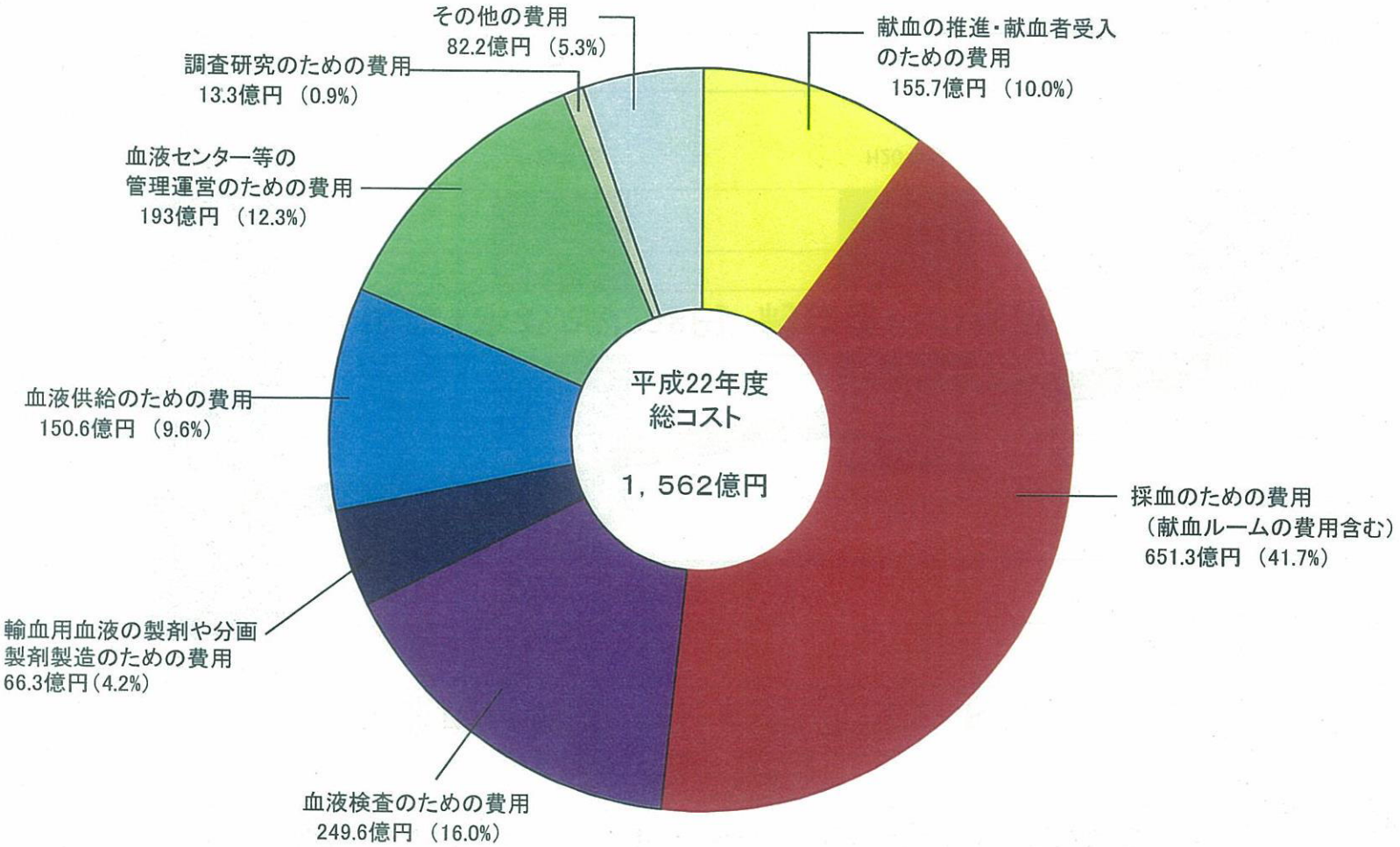
製剤実施箇所数	54	50	42	30

＊最終実施箇所予定数＝11

コスト削減効果

単価差額（平成18年度1,610円-平成21年度1,382円＝228円）×平成21年度採血数　530万人＝約12億円

血液事業にかかる業務内容別コスト割合



今後の主な財政負担要因

(1)血液事業の基盤整備(血液センター等の施設整備)・・・総額 約600億円

ア. 広域事業運営体制導入に伴うブロック血液センターの設置 ・・・ 平成25年度までに7ヶ所
イ. 地域センターの施設更新 ・・・ 今後計画的に経年更新整備を行う。
ウ. 地域センター事業用地の取得 ・・・ 自治体無償貸与地の自社保有化への取り組み。

(2)安全対策の強化・・・総額 約320億円

ア. 検査精度の向上・・・次世代検査機器の整備等。
イ. 製剤業務の安全性及び効率性の向上 ・・・ 製剤自動化機器の導入。
ウ. 血液製剤の品質保証及び過誤防止等 ・・・ 次期血液事業情報システムの開発。
エ. 安全性向上のための研究活動の充実 ・・・ 中央研究所の施設整備。

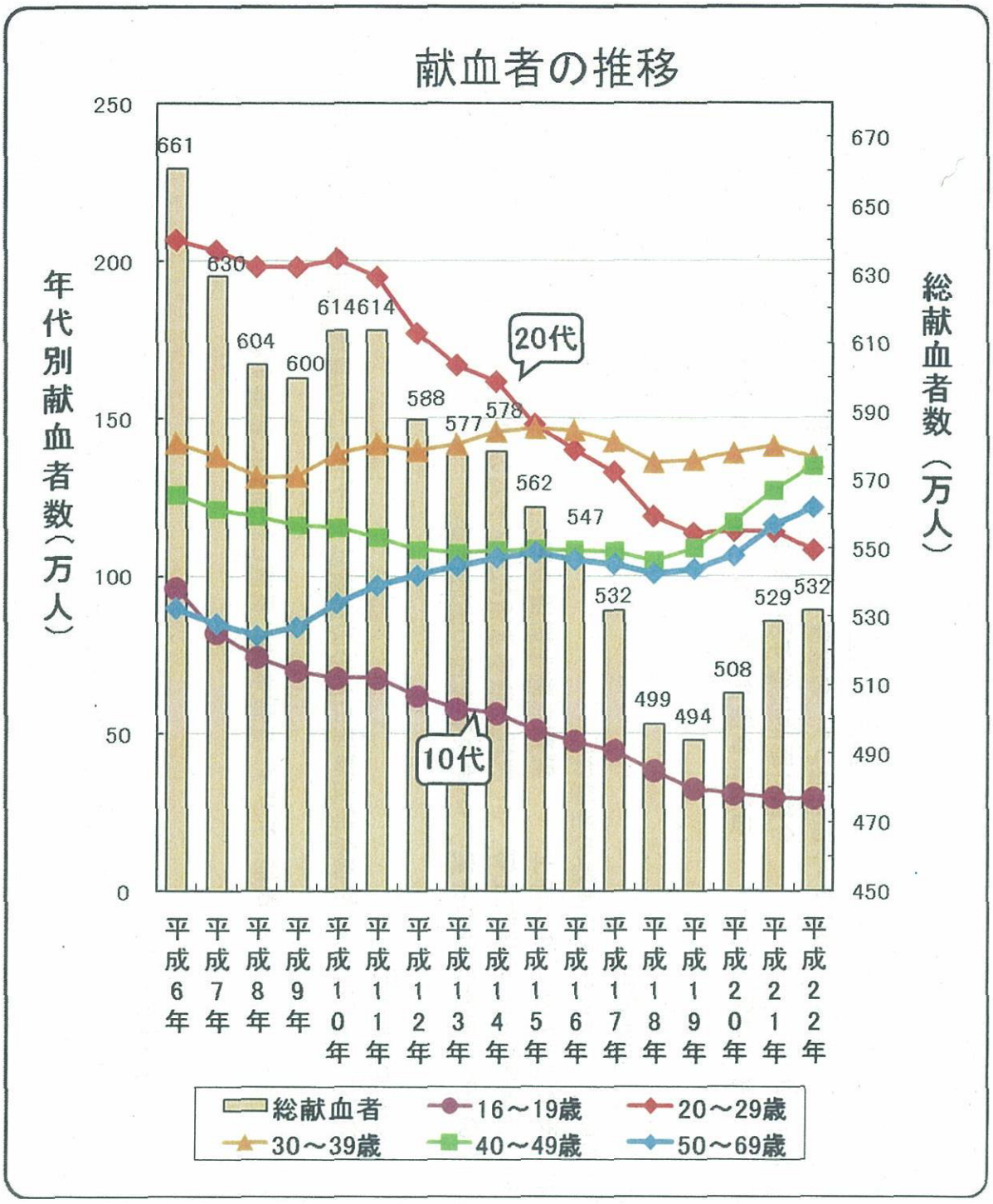
(3)献血環境の充実・・・総額 約200億円

ア. 献血ルームのリニューアル ・・・ 快適な献血環境のための施設拡充・デザインの見直しなどを計画的に行う。
イ. 献血バスのリニューアル ・・・ 機能、デザインを抜本的に見直し計画的に整備する。

(4)供給体制の充実・強化・・・総額 約30億円

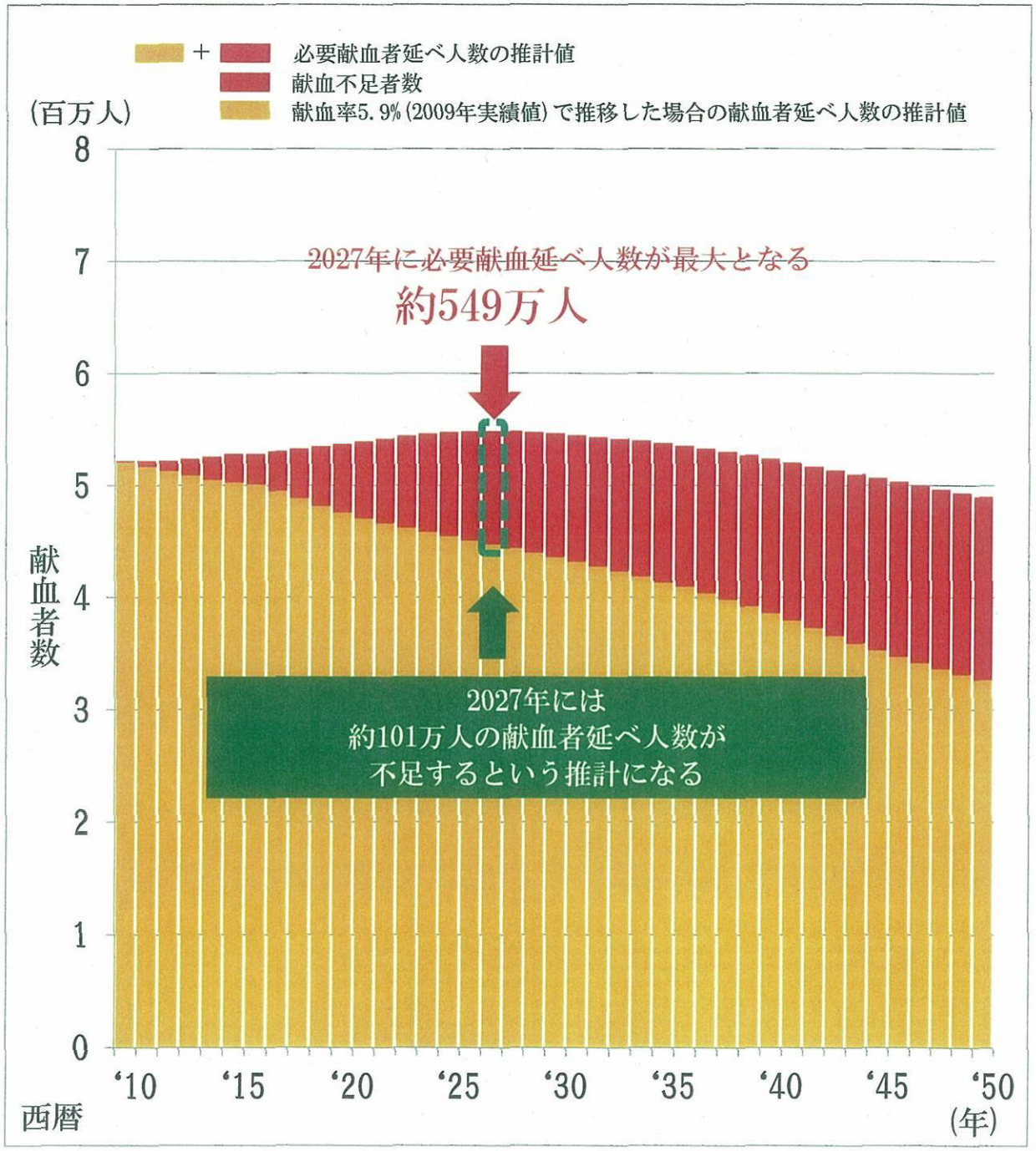
広域事業運営体制の導入にあたり供給拠点の見直しを行い、供給出張所の改修を計画的に行う。

（参考）


献血者の推移
年代別献血者数（万人）
総献血者数（万人）
250
200
150
100
50
0
670
650
630
610
590
570
550
530
510
490
470
450
661
630
604
600
614
614
588
577
578
562
547
532
499
494
508
529
532
20代
10代
平成6年
平成7年
平成8年
平成9年
平成10年
平成11年
平成12年
平成13年
平成14年
平成15年
平成16年
平成17年
平成18年
平成19年
平成20年
平成21年
平成22年
総献血者
16～19歳
20～29歳
30～39歳
40～49歳
50～69歳

必要献血者延べ人数のシミュレーション

出生率中位(死亡率中位)の場合



東京都福祉保健局がまとめた2007年輸血状況調査結果と、将来推計人口を用いて将来の輸血用血液製剤の供給予測数を算出し、供給に必要な献血者数を算出すると、2027年には約549万人必要となるシミュレーションになる。
また、2009年の献血率（＝献血者延べ人数／献血可能人口）5.9%を今後も維持すると仮定し、将来推計人口より、仮想の献血者延べ人数を算出すると、2027年には、約101万人不足するというシミュレーションになる。